

りあぐ

おもひしつたか 右足一步強く踏み出し振り上げ

たるかひを打ち下ろす

狸どの 両手こぶしを握り稍肩を張る如くして足

を引く

そこで狸は 狸はにて左足一步前へ出し両手を前

下方に出しかひを握る

かひをば 右上方に両手を振り上ぐ

すて、 足を引くと共に振り上げたる両手を前へ

投げる如く捨つ

をろく聲に 柔らかく次第にに體を縮めて蹲

踞す

両手を合せ 體前方にて兩掌を合す

いのち計りは 両手を前につき禮をなす

うさぎ うさぎ 上方を見あく

さま 直立す

○机邊より

「……宿屋の二階で見て居ると、燕が花を啣へて、飛んで來ました。それを父さんの前へ落して行きました。」

燕といふ鳥は、春先、遠い空の方から、矢張父さん見たやうに、國をさして歸つて來ます。

そこには何かの大きな力があります。それであゝして同じ道を歸つて來るのでせう。その燕が父さんの前に、花を落して行つたのは、よくて休んで行けといふことに相違ない。と左様父さんも考へました。燕は父さんに、草臥れた時は休んで行け、と教へて呉れました。

父さんは京都に二日居ました。二日目の晩に京都を立つて、それから夜汽車でお前達の方へ歸つて來ました。

草臥れた時は休んで行け。ほんとに、お前達もあの燕から教はるがよい。

〔幼きものし……島崎藤村〕